

○平成27年度外部評価委員会の評価結果について

平成27年9月7日に開催された外部評価委員会(委員5名出席)において、事後評価2題、中間評価2題、及び事前評価1題の評価が行われました。評価結果については下記のとおりです。

なお、評価方法は5段階評価で

- 5:非常に高く評価できる。
- 4:高く評価できる。
- 3:評価できる。
- 2:あまり評価できない。
- 1:評価できない。

としています。また、総合評価が2点以下の課題は、原則として廃止又は中止することとしています。

1 事後評価

- ・ 地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響に関する調査研究
(実施期間:平成24年度～26年度)

評価事項	委員					平均値
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の達成度	4	4	4	4	4	4.0
② 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	5	5	4	3	4.0
③ 学術的意義又は技術開発に対する寄与の程度	4	5	4	4	4	4.2
④ 県民のニーズに対する対応及び波及効果	4	3	5	4	3	3.8
⑤ 調査研究成果の取りまとめ及び公表の状況	4	5	4	4	3	4.0
⑥ 今後の発展性	4	4	5	5	3	4.2
総合評価	4	4	5	5	3	4.2
(主な意見)						
「深層の溶存酸素と全層循環の関連性が明確に示せたことは評価される。」「表層水温と深層水温とを比較することで、全層循環の条件が明瞭に示されている。また、気温推移、冬季平均気温・平均風速などの結果も整合性が取れていると考える。」との意見がありました。また、「地球の温暖化という現象から水質を如何に保全するかの対応策の提言に繋がる調査・研究に発展させて欲しい。」との意見もありました。						

- ・ 県内産食品のカビ毒(アフラトキシン)汚染実態調査
(実施期間:平成24年度～26年度)

評価事項	委員					平均値
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の達成度	4	3	4	4	4	3.8
② 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	5	5	4	5	4.4
③ 学術的意義又は技術開発に対する寄与の程度	4	3	5	4	5	4.2
④ 県民のニーズに対する対応及び波及効果	3	4	4	4	4	3.8
⑤ 調査研究成果の取りまとめ及び公表の状況	4	3	3	4	5	3.8
⑥ 今後の発展性	3	4	4	5	4	4.0
総合評価	4	4	4	5	5	4.4
(主な意見)						
「黒糖がアフラトキシン汚染率が高いことについて、収穫前の「黒ずみ」との関係を明確にしたことは高く評価される。台風などによる倒伏によって土壌汚染したことで菌が着生し、刈取り前に表面でアフラトキシンを産生しており、加工前の水洗によって汚染濃度を大きく減らすことができることを示したのも、生産・加工業者の指導に生かせる。」との意見がありました。また、「土壌中のアフラトキシン保有菌の分布や特性、更に植物との関連、気候や土壌酸性度、共存菌との共生環境などについて検討を広げるべきであろう。」との意見もありました。						

2 中間評価

- 鹿児島県における粒子状物質などの地域特性に関する調査研究
(実施期間:平成25年度～27年度)

評価事項	委員					平均値
	A	B	C	D	E	
① 調査研究の進捗状況	4	4	4	3	4	3.8
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	4	3	4	3	4	3.6
③ 調査研究継続の妥当性	4	5	5	4	4	4.4
総合評価	4	4	4	4	4	4.0
(主な意見) 「桜島火山を有する鹿児島の大気環境を評価する上で必要な調査・研究である。他県の粒子状物質と相互比較研究すれば特異性が明らかにできると考える。」「SPMとPM2.5の相関が薩摩川内局と鹿屋局で大きく異なっており、『鹿屋局で越境汚染以外も受けている』との考察だが、より深い検討を期待したい。」との意見がありました。また、「データは月単位で平均化することによって特徴が見えにくくなることもあるのでデータの取扱い方には注意が必要と思われる。」との意見もありました。						

- マダニのSFTSウイルス保有状況等に関する調査研究
(実施期間:平成26年度～28年度)

評価事項	委員					平均値
	A	B	C	D	E	
① 調査研究の進捗状況	4	3	4	4	5	4.0
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	3	4	3	5	4	3.8
③ 調査研究継続の妥当性	4	5	5	5	5	4.8
総合評価	4	4	4	5	5	4.4
(主な意見) 「本県は、国内でも数少ないマダニのSFTSウイルスによる死者が発生している県である。国内でも最前線であることから、更なる調査研究を行い、予防方法等県民への啓発に繋げていただきたい。」との意見がありました。また、「他県との連携による感染防止対策はもちろんのこと、国や医療等とも連携して感染者の治療にも生かせるよう研究を進めていただきたい。」との意見もありました。						

3 事前評価

- 鹿児島県におけるPM2.5の地域特性と発生源解析に関する調査研究
(実施期間:平成28年度～30年度)

評価事項	委員					平均値
	A	B	C	D	E	
① 調査研究目的の妥当性・合理性	4	5	5	4	4	4.4
② 調査研究内容及び調査研究体制の妥当性・合理性	4	4	4	4	4	4.0
③ 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	5	5	4	4	4.2
④ 学術的意義又は技術開発に対する寄与・期待の程度	4	4	5	5	4	4.4
⑤ 県民ニーズに対する対応状況	4	5	4	4	3	4.0
総合評価	4	4	5	5	4	4.4
(主な意見) 「PM2.5の発生源として中国大陸が占める役割を疑う者はいないと思うが、それをより明確にするためには、季節風の影響を示すことが効果的である。それには、狭い県内の比較よりも、季節風の違いがより大きい九州・西日本での比較をする必要がある。」との意見がありました。また、「国内の粒子状物質(PM2.5)の測定に関わっている研究機関等との情報を交換すれば桜島火山の粒子状物質の特異性が明らかになるのではないか。」との意見もありました。						

○評価結果に対する対応

今後は、平成27年7月28日に開催した「内部評価委員会」の評価結果も含め、以下のとおり評価結果及び委員の御意見を反映させた調査研究を検討・実施するとともに、調査結果については県民のニーズへ反映できるよう対応することとしています。

1 事後評価を受けた2課題

- ・ 「地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響に関する調査研究」については、池田湖は、環境省等が行った温暖化が大型淡水湖の循環に及ぼす影響の研究においても影響調査のモデルケースともなっており、常時監視調査時に多項目測定装置を用いた調査を継続する等、評価委員会の意見を参考に調査を継続していくこととしています。
- ・ 「県内産食品のカビ毒(アフラトキシン)汚染実態調査」については、サトウキビ生産におけるアフラトキシン汚染低減化に向けた行政指導が適切かつ効果的に進められるよう、今回の調査研究で得られた低減化対策案について関係部局へ情報提供することとしています。

2 中間評価を受けた2課題

- ・ 「鹿児島県における粒子状物質などの地域特性に関する調査研究」については、データの更なる蓄積を行い、桜島や気象などによる影響を加味した解析を進めることとします。
- ・ 「マダニのSFTSウイルス保有状況等に関する調査研究」については、マダニのSFTSウイルス保有状況や保有率、マダニの種類によって季節の消長が異なること等が徐々に明らかになっていますが、さらに分布状況等の把握を行っていきます。また、評価結果を踏まえ、マダニのSFTSウイルス保有状況等のデータを蓄積し、県民への広報活動等に役立てることとします。

3 事前評価を受けた1課題

- ・ 「鹿児島県におけるPM2.5の地域特性と発生源解析に関する調査研究」については、無機成分等分析項目を追加するほか、これまでの蓄積データを用いて構成成分からの地域特性の解析や発生源の推定に繋げていくこととします。